

第19回 発電用設備規格委員会 材料専門委員会 議事録

1. 日 時: 2013 年 5 月 30 日(木) 13 時 30 分～17 時 00 分

2. 場 所: 日本機械学会 第1会議室

3. 出席者: 委員総数 22 名中、出席者 21 名(代理 3 名)、欠席者 1 名

高橋(電中研)、木村(NIMS)、山田(中電)、増山(九工大)、浅山(JAEA)、伊勢田(新日鐵住金)、尾崎(東電)、木原(ベストマテリア)、澤田(NIMS)、榎木(日鉄住金テクノロジー)、田中(日本製鋼所)、中城(東芝)、船田(JNES)、吉田(発電技検)、朝田(三菱重工)、齋藤(三菱重工)、安田(原安進)、伊藤(IHI)、

代理人: 山川[三枝(電中研)]、村上[田村(パブ日立)]、岩波[藤森(日立 GE)]

欠席者: 南(NKK シームレス鋼管)、

オブザーバー: なし

事務局: 小沢

4. 配布資料

資料材 19-1	第 18 回材料専門委員会議事録(案)
資料材 19-2	材料専門委員会委員名簿及び出欠状況等
資料材 19-3	第 64 回発電用設備規格委員会議事録(案)
資料材 19-4	材料専門委員会 課題対応一覧(Tracking List)
資料材 19-5-1	「材料事象の解説」規格委員会投票意見と回答
資料材 19-5-2	同上対応案(別紙)
資料材 19-6	「材料事象」の図書番号等について
資料材 19-7	材料専門委員会分科会設置の提案

5. 議事内容

(1)開会

委員総数 22 名中、出席 21 名(開会時、代理出席 3 名を含む)であった。出席者は委員総数の 2/3 以上(15 名以上)であり、本委員会は成立することを確認し、高橋委員長が委員会開催を宣言した。

新三役の高橋委員長、木村副委員長、山田幹事の挨拶に引き続き出席者が自己紹介を行った。

(2)議事次第確認

議事次第(案)と配布資料を確認し、議事次第(案)記載の配布資料に1件(19-5-2)追加し、1件(19-7)名称変更を行った。

(3)議事録(案)の確認【材 19-1】

第 18 回材料専門委員会の議事録(案)の確認を行い、議事録案は承認された。

(4)委員委嘱関係【材 19-2】

高橋委員長選任が規格委員会です承されたことが報告された。

今回委員の新任、再任、退任はないことが報告された。委員の所属等が一部変更となっているため名簿の修正を行う。

委員の登録情報の変更は委員各自で行うことができるので、可能であれば自ら変更を行うこととし

た。

(5)規格委員会報告【材 19-3】

第 64 回発電用設備規格委員会議事録(案)の材料専門委員会関連部分が報告された。

6. 審議事項

(1)材料専門委員会課題対応一覧(Tracking List)【材 19-4】

以下の5課題が審議未了であることを確認した。

RQ09-C2-002:(増山)材料事象に関する解説(非強制規格)

RQ09-C2-003:(増山、木原、齊藤、田村、山田、伊藤、(石毛))既存設計規格の中の材料関連事項の見直し

RQ10-C2-001:(高橋)デジタルデータ提供の手順

RQ12-C2-001:(木村)ファイル共有機能の運用ルール

RQ12-C2-002:(山田)発電用原子力設備規格 材料規格の特別要求事項に関するレビュー

(2)材料専門委員会の今後の進め方について【材 19-7】

新三役からの提案として、材料専門委員会のより一層の活性化と発電用設備規格に対する貢献の拡大を図ることを目的に以下の二つの分科会を設置することが高橋委員長より説明された。

① 新材料規格化分科会

② 材料規格統合化分科会

審議の中で増山委員より ASME Sec.II を例にすれば、①の分科会は、新材料の採用ルールも含めて新材料を Part D に取り込むことがミッション、②の分科会は、Part A,B,C を整備することがミッションであるとの新分科会の意義に関する意見が出された。

審議の結果、上記二つの分科会の設置について材料専門委員会の書面投票を行うことが全会一致で了承された。

(3)「材料事象」(RQ09-C2-002)の規格委員会書面投票結果への対応について【材 19-5,6】

投票番号:発電用設備規格委員会 No.224、投票議案名:発電用設備規格委員会 非強制規格 発電用設備規格関連の材料事象の解説(案)の承認は、以下のとおり否決された。

賛成:20、反対:1、保留:5、未投票:2、意見:7 件

1)規格の名称等について【材 19-6】

事務局より資料に基づき説明がなされた。

規格の表紙は、

発電用設備規格

発電用設備規格関連の材料事象

Codes for Power Generation Facilities

– Explanations of Metallurgical Phenomena for Power Generation Facilities –

JSME S CB1-XXXX

とし、免責条項、序文等を他の規格と同様に追加することとした。(賛成:20/20)

2) 意見対応について【材 19-5-1,2】

継続審議とした(吉田委員の(m)以降)。対応方針としては、

- コメントにより技術的な改善を伴うもの
- ASME の最新版による見直し

は次のステップとし、本案を一旦は仕上げることにした。

審議終了分については以下の対応を行うとともに、その反映分及び未審議分については次回専門委員会にて引き続き審議することとなった。

- ✓ 小山委員の A-205;A-100 の 2 行目にて本規格は JSME 規格を対象としている旨を明記する。
- ✓ 小山委員の A-211;「脆性-延性遷移温度」と「無延性遷移温度」の使い分けの可否は規格全体を調査して判断する。
- ✓ 吉田委員の(a);本規格の趣旨を回答案の欄に明記する。(吉田委員了承)
- ✓ 吉田委員の(c);「種々の発電用設備のうち、」は削除する。
- ✓ 吉田委員の(d);「石油精製では」の記述は例示として記載している旨を回答する。
- ✓ 吉田委員の(e);「石油化学産業」の記述も例示として記載している旨を回答する。
- ✓ 吉田委員の(g);挿入とし国内文献を先に多く記載することとする。
- ✓ 吉田委員の(i);「1972 年」の記載は概ね 1970 年頃の状況を記述している趣旨に修文する。
- ✓ 吉田委員の(j);原文の「When post welding …」以降に該当する記述は削除する。
- ✓ 吉田委員の(k);第 2 パラグラフは削除する。
- ✓ 吉田委員の(l);材料専門委員会の今後の検討課題とし、次回改訂で対応する。

7. 次回開催予定

日 時:2013 年 8 月 23 日(金) 13:30-17:00 (予定)

場 所:日本機械学会第 1 会議室

以 上